

シンポジウム「国産材木造建築の推進に向けて — 林業と建築の連携を探る」

CPD 申請中

林業行政関係者、森林吸収評価法関係者、土木分野木材利用関係者等も招いて、現状と動向、問題点等を明らかにし、市場と供給のあり方、学会の対応、全体の長期的あり方、行政施策への提言等について討論する

北海道大学で行われた建築学会大会では研究懇談会『地球環境時代における国産木材活用をいかに進めるべきか』を開催し、建築分野における国産木材の利用促進について様々な視点から討論した。今回、地球環境委員会では、さらに討論を深めるべく、伝統的木造住宅の温熱環境と省エネルギー特別研究委員会と合同で、あらためて研究集会を開催することにした

戦後の拡大造林で全国に植えられた杉、桧、から松等の人工林が林齢60年前後の伐期を迎えており、国産木材の活用が求められていることはよく知られているところであるが、大手住宅建設業者は輸入木材の集成材を多く用いており、国産木材の需要量はその供給力に比べて低いままである

供給だけを増やすと供給過剰になって市場価格が低下しますます林業の経営を苦しめることになりかねないことはわかっており、この状況を打破するには輸入材に代替して国産材の需要を増やすことが求められている。そこで林業、林産業、木材流通から、設計者、工務店、建て主をつなぐ国産木材供給経路全体の問題点を再検討し、国産木材利用の促進策を探るとともに、育林から廃棄までのライフサイクルアセスメント(LCA)の手法についても最新の研究動向を紹介し、2050年建築分野カーボンニュートラル実現に向けて貢献できる木造建築のあり方を考える

主催：日本建築学会・地球環境委員会

共催：日本建築学会・伝統的木造住宅の温熱環境と省エネルギー特別研究委員会

日時：12月12日(木) 10:00~17:00

会場：建築会館ホール 東京都港区芝5-26-20 定員200名

参加費：建築学会会員2,000円、会員外3,500円、学生1,000円

(資料代含む、当日会場でお支払いください)

参加申込、問合せ：日本建築学会 森田 morita@aij.or.jp TEL 03-3456-2051

詳細：日本建築学会 HP <http://www.aij.or.jp/>

司会 外岡 豊 (埼玉大学)
副司会 鈴木 進 (木の家だいすきの会)
記録 山崎 真理子 (名古屋大学)

10:00 開会

開会あいさつ 吉野 博 日本建築学会・会長

1. 主旨説明：外崎真理雄 (森林総研四国支部)

(当日参加いただけなくなりましたので代わりに司会から経緯の説明をさせていただきます)

2. 主題解説 (発表+質問 各30分)

- ① 森林・林業・木材産業の現状と課題、政策 阿部 勲 (林野庁)
 - ② 森林吸収評価の考え方 天野 正博 (早稲田大学)
 - ③ 土木分野の木材利活用 沼田 淳紀 (飛鳥建設、土木学会・木材工学委員会)
- 午前中の全体討論

昼休み 12:00-13:00 予定

- ④ 伝統木造住宅のエネルギー消費実態調査 篠 節子 (建築家)
- ⑤ 伝統木造住宅の定義 中村 勉 (建築家)
- ⑥ 木造住宅の熱性能と省エネルギー 福田 展淳 (北九州市立大学)
- ⑦ 需要主導国産木材利用推進事業モデル 高口 洋人 (早稲田大学)
- ⑧ 木材生産のLCA 高村 秀紀 (信州大学)
- ⑨ 木造住宅のLCA 外岡 豊 (埼玉大学)

3. 討論

4. まとめ：三井所 清典 (建築家)

17:00 閉会

なお講演者等は当日変更になる場合もあります